

Voice of E.&N.

エネルギーと自然環境

15周年の会

Yuuke Kuriki
April 15, 2003

What we can do to save energy

- turn off lights if not used
- turn off kitchen gas for short distance
- try not to ride car for short distance
- try not to use air conditioner if not necessary
- turn off TV when you are not watching
- turn off computer if not used
- try not to over flow bath water
- turn off water when not necessary
- try not to use heater if not necessary
- use batteries instead of electricity

Mellisa

- How we can conserve electricity
- turn lights off when not in use
 - turn heaters off when not in use
 - turn coolers off / open windows
 - don't use dishwasher / do by hand
 - turn off boiler in house when house is vacant
 - turn off computer
 - turn off CD & MD players
 - turn off TV
- DON'T USE TV
NEEDED!**

**DON'T USE TV
NEEDED!**

Anne E.

How to conserve Electrical Energy in

- minimizing T.V. time
- open windows for cooling
- open curtains instead of turning on lights
- turn off T.V. when you leave the room
- shut-down computer @ night
- turn off lights when you leave the room
- minimize computer time
- use solar energy
- turn off lights when you sleep

4月15日、西町インターナショナルスクールの中学1年生31人が、東京電力横浜火力発電所を見学しましたが、その時、柏崎の東京電力原子力発電所がストップしていること。そのため、夏には、電力不足がおこり、停電をおこすかもしれないという深刻な話をしました。

それでなくとも、世界の人口はふえる一方で、電力需要はふえる傾向にあり、節電の必要性はますますばかりです。

こんな話をきいた上で、生徒たちが自らの生活の中で、どんな節電対策を実践しているか、今後、実行できるかを書いてもらいました。

「コンピューターは使わないとき電源を切る」「部屋を出るときには、電灯は必ず消す」「クーラーはなるべく、使わず、窓から風が入るよう、カーテンは開けておく」など細かいことまで書いてあります。そのうちの一人の代表的なものをつぎにのせます。

How can we preserve energy ?

Electric energy is now a necessary to carry on daily life. If we abuse the use of electricity, a problem will occur.

In the future, the Earth's population will increase greatly, With all of those people, we will need more electricity at demand. This will be difficult to accomplish, so we need to start saving electricity. For example, we could only use lights when really needed. If nobody is in the room, turn off the lights. Electronic device like T.V's, radios, and computer should not be used as often as we do, or left "on" while not in use.

All over the world, power plants produce electricity, but will it be enough to substain the future? Power plants could perhaps try to create even more electricity. In the meantime, you should try to do what you can at home, and ever give suggestions to neighbors and friends.

Batteries is another source of power, but should only be used sparingly.

Everytime you use electricity, think of this tips and prepare for the future.

Paul Blasi TB

April 15th, 2003

「エネルギーの見直し」について

6月に入り、これからが夏本番という時に、東京電力では原発17基のうち16基が現在も停止中である。柏崎刈羽原発の6号機だけが、5月上旬に運転を再開した。7号機についても、いつ再開出来るのかわからない。

省エネが問題になってから、我々の生活は少しも変化せず、むしろ電気使用量は増加している。生活の方法やムダを省く生き方を根本からもう一度この機会に改めて考え、なおかつ実行してゆかなければ今夏の停電もやむを得ない。

環境問題においても、原子力発電所より出るゴミの処理等を考えてゆく上で、これ以上増やしてはならないと思う。都市部で発生するヒートアイランド化の対策も必要である。

省エネルギーの持つ問題も、環境問題と合わせて実行してゆく上で、私達の暮らし方も変化させる事が出来る。ライフラインの元である電気がなければ何も始められない私達の生活を、今回の原発問題で改めてもう一度見直してゆく必要がある。

私に出来る事から少しずつ始めよう。

- ・車に乗らず歩く（健康に良い）
- ・室内冷房設定温度28℃（なるべく窓を開く）
- ・ブレーカーが降りる様30Aのままで生活

小尾美佐子（東京）

「エネルギーについて考える」

一昨年の夏、中国内蒙古自治区の大草原で、見渡すかぎり延々と続く大型トラックの車列を見ました。積荷は石炭。中国の工業地帯の大型火力発電所に運ばれ、電力に生まれ変わります。この電力は大部分が北京に送電され、首都大改造事業の一翼を担っています。

北京の消費電力の25%が内モンゴル産、おかげで北京名物の停電も姿を消しました。

ガイド役の自治区政府のTさんの解説によると、中国はいま、エネルギー構造の大規模な転換を進めています。その柱の一つが、大炭田の近くに火力発電所を集中立地し、生産した電力を北京・上海などへ送電する計画です。名付けて「西電東送」。中央はコスト節減、大都市の環境保護などを掲げ、地元でも新しい雇用の創出などを期待しています。

熱心に語るTさんの顔を見ながら、日本の場合を考えていました。原子力と石炭火力の違いはあれ、地産地消ならぬ地産他消型の供給システムが同じに見えたのです。

産地と消費地が乖離し、相手の利害には無頓着。一方が放射能漏れを気にしても、他方はわれ関せず、彼方が電力不足を騒いでも、此方はどこ吹く風。

行政・業界などからの情報不足も否めません。これが日本中蔓延して、国民はしらせ鳥。綱引きが始まった夏の電力不足問題は、少し離れた地方から見れば、すべてが東京ローカルのテーマに映ります。

どのような解決法があるのか、浅学非才の私には見えてこないのが現状です。

(広 島)

「もったいない精神を省エネに」

3人暮らしの我が家の冬の電気料は1ヶ月約2万円。暖房費の増加で春秋の2倍になる。

私の節電対策はこれを何とかすることと考えているのだが、実践に移すまでに至っていない。しかし電力事情の厳しい今年こそ行動する時である。

幸い節約・節電に関して、私には身近に良い手本となる実践者がいる。80歳になる母である。私の弟家族と暮らしている。

10月、母は家族の綿入れはんてんを作り始める。冬仕度スタートである。そして居間にストーブを置き、これをフルに活用するのである。大根を煮たり、いもをふかしたりと食事の準備もしてしまう。

お茶はここで沸かしたお湯をポットに入れて使用する。それでもお湯は使い切れない。そこで登場するのが湯たんぽである。中学生の孫達は帰宅するところたつの中から「マイ湯たんぽ」を自分の部屋に持っていく。そして翌朝、湯たんぽのぬるま湯は寒い冬の雑巾洗い用として使われることとなる。

母は「世の中、どこか狂っている、こんな生活が続くはずはない。」と大量消費のせいかつに抵抗してきた。私は何もそこまでしなくとも、母の言葉に耳を傾けなかった。

しかし今やっと母の「もったいない」精神の重要さを理解し、それがあたりまえの生活として実践できるようになってきている。

次に来る冬までに我が家でも「マイ湯たんぽ」を準備して、夜間の暖房費0円を実現させようと考えている。

(山 形)

「節電 —生活の中で出来ること—」

私は、かつての石油ショックで青ざめたあのことをすっかり忘れています。今年の夏の電力はどんな状況を示すのだろうか……。

私が八年程前に、ヴェネツィアを旅した時に有名なガラスショップに入りました。あら—まちがったかと、思うくらいの暗い店です。丁度昼休みに入っていて、客も店員もいなかったから消灯していたのです。

こんな時、照明はいりません……店員の言葉に、今更ながらに感心しました。日本人にはここが足りません。

使わないテレビ・ビデオの主電源スイッチはきりましょう。全ホテルや家庭に確実に実施できたら大きな+が出ます。冷蔵庫の使い方・食器の洗い方等も家庭の中での目標とすることが出来ます。

大きく取組んでいると宣言しなくても、無駄な電気を使わないよう日常生活の中で配慮することが普通であるようになりたい。

(三 重)

「エネルギーの便利さ再考」

石油ショック以来、特に夏場を迎えると省エネルギーが提言されつつも、生活が便利になるにつれ、家庭での電気の使用量は十年間で約六割も増えているという。

電力会社のデータ改ざん問題で原子力発電所の原子炉すべてが停止され現在徐々に再稼働されてはいるが、この夏は電力不足に陥る懸念も出ている。余りにも原子力に頼り過ぎていたことを改めて痛感させられた。

新エネルギー利用を義務付ける新法が四月から施行され、地球にやさしい新エネルギーに取り組む先進企業も増え、環境保全型経営も広がっている。

消費者自身も生活習慣を見直し省エネルギーに努めることは当然なことであるが、エネルギー源はあらゆる事態を想定し多様化が必要だと思う。

わが国が温暖化防止の地球環境を国民一人ひとりが推進する先進国を目指したいと、心から願う次第である。

(横 浜)

「エネルギーについて思うこと」

もうかれこれ20年以上前になるが、アメリカでの日常生活はガスから電気が変わりつつある時期に、4年ほど生活した。

台所のレンジ台、洗濯乾燥機なども新築の家はみな電気によって来ていた。200ワットで火力も強いので、時間は短縮できるが、余熱に慣れるまで、とまどったのを思い出す。夏でも冬でも家中一定の温度に保たれ、外出して、いつ帰宅しても快適に過ごせた。

国の広さはエネルギーも豊富で安価なのだと、びっくりさせられた。そして、電気をふんだんに使える日が、日本にも来るのだろうか、と思ったものだ。

さて、クリーンで安価な原子力発電による安定した電力を得られ、プルサーマルによって、リサイクルしながら快適な生活を送れる、ふさわしい電力を得られるかに見えた矢先、現状のような結果では、不安は隠せない。

前述のアメリカでも、決して無駄には消費しない。洗濯物はためておいて、洗う。(日本人のように、ためるのがいやで、ちょこちょこしない。)最近日本でも見られるようになったが、人がいると感知して動くエスカレーター、エレベーター。自動的に点灯し、消灯する電灯(玄関・廊下・階段など)など、省エネはいろいろ考えられていた。

何年前か、テレビでタイの自給自足の民家の様子が、放映された。それによると各家に、ごく簡単な風車を取り付けられており、使用する電気を起こしている。もちろん今の日本ではそれだけではどうにもならない、かもしれないが、ソーラシステムなどうまく取り入れることによって、チリもつもればということになる。

これからは、増やすことがますます難しくなる原子力発電所をつくらなくてもすむのではないかなどと、考えている。

とにかく、原子力発電だけに依存すること無く、水力、風力、ソーラ、燃料電池など安全なあらゆるエネルギー開発を研究し進めていただきたい。

(武蔵野)

「エネルギー対策にちょっとした説明工夫を」

「欧州では、既に原子力発電は廃止の方向なのに、日本は何故？ 事故も隠したりして」と、聞かれました。disclosureと言うのは、日本の社会では、勇気がいること、日本は資源に乏しいから、原子力発電に頼らざるをえないと、当然のように説明していて、不安になりました。

エネルギー対策に関しての国の自信が見えていないから。説得力のある説明がないからだと気づきました。

彼女曰く。「窓ガラスが薄い。厚ければ、暑さも冷たさも遮断できる。オフィスの室温は冬は暑すぎる。夏は寒すぎる。」

成程と思って考えたこと2つ。床、壁の断熱材はともかく、一枚の厚い窓ガラスまで強く薦めてくれた建設業者はいたかな？

節電の為に「室温は〇度にしましょう」と助言はあっても、「日本人の快適な体感温度は湿度も考慮して〇度で十分です」という理由説明はついていたかな？

外国人の意見も聞いて、視点をちょっと変えてみませんか。

(東京)

「ポーズでなく本気で」

TV等媒体では、この夏の電力はA局では大丈夫であると放映し、同じ日に他の局では大変であると放映している。一体、何を信じればよいのか。

国か、もしくは、第三者機関でもって、わかりやすく正しい情報をTVとか他の媒体も使って知らせてほしい。

そもそも原因は事業者にあり、倫理感の欠けるところにある。

消費者としてはかつてのオイルショック時のように省エネに努めるよう、努力はするが電力関係だけでなく全ての事業者もポーズでなく心底こめて努めてほしい。

ただ日本経済低迷の折から、夜のネオンも暗くなり、深夜放送もなくなるとしたら、心理的にますます暗くなるかもしれない。

(大阪)

「エネルギーに提言する」

去年は原子力発電所の多重な事件の発生で、またしても国民は不信感を増幅させられた。

ついに原子力発電の全面的ストップの異常事態を招いてしまった。

事が起こらないと反省も行動をも起こさないとは、何と愚かしいことか。改めて考えさせられる日本の現実である。

食肉業界等の偽装隠ぺいと、電力会社の隠ぺい事件の背景には、経済優先の風潮が、安全性を軽視という同じ図式があると云われる。

と同時に確たる保守点検基準も持ち合わせていなかった国のずさんさと、隠ぺいを容易にしたシステムのあり方や閉鎖性も事件上大きな要因をなしたことも否めない。

原子力関係者の猛省を願いつつ国民の信頼回復が本気で計られているかを見守っている。

エネルギーを学びはじめて15年、ITの普及や少子高齢の影響で、生活をサポートする電気製品の数も増え、家族のパーソナル化の進展と合まって消費電力はうなぎのぼり。豊かな暮らしを求める一つ一つの行為は小さくても数の増加で地球温暖化は進み続けている。

私的にはトップランナー方式で出てきた省エネ製品を買うように心がけることからエアコンの温度設定、TVや台所まわり等の待機電力にも気を配るなど省エネにつとめて久しい。

が、まわりを見廻すと意外にもエネルギーの使いほうだいが目につく。

“皆で渡れば怖くない”に象徴される、日本の社会では、まだ行政主導での省エネへの声かけが必要なのではないだろうか。

近年は民生・運輸部門のエネルギー需要増が顕著とか、デパートや電車バス、公共機関への省エネアプローチも積極的に願いたい。

そして生活者もこの際物事の見方、価値観、暮らし方について今一度チェックし、今後に向けて「どうなる」でなく「どうする」と主体的に暮らし振りを変えていく必要がある。

個人の損得でなく地球環境のために行動する価値観をもつように意識の変化と具体的な行動こそが望まれる。

立田 洋子 (福岡)

「綻んだ衣の館の修復」

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」とは、私達昭和一桁生れの小学校時代に於ける「修身」の教科の中からの格言でもある。

現在、世界的にエネルギー事情はその経済性とも相俟って少しく綻び始めている様にも思われる。石油問題にしても、原子力問題にしても経営と管理、流通さえシッカリしていたら、何も恐れる事はないと思われるのであるが、古き日本国に於ける、陸奥の国の争いで“衣の館は綻びにける”“年を経し糸の乱れの苦しさに”と風流とも言える戦争の応酬と比べ、現今の中東、アジアの産油国に於ける戦争、又は、日本に於ける原子力問題にしても、何となく年を経て衣の館が綻んでいるのではなかろうか？ との懸念を持っているのは、恐らく私一人ではあるまいと思っている。

東京電力に限らず、今少し、各人が持ち場持ち場に対する責任感を強く持って戴き度いと願って止まない。昭和一桁は、国や社会の行く末を考え、今少し何とかしなければ……!!

と考えても、どうにもならないなら……どうしようもない……と少々精神的には荒んでいる様に思われてならない。この綻んだ衣の館は一体どの様にしたら間違いなく繕えるのであろうか？

矢張り、下々の者としては、上に立つ人々がもっとシッカリ“禪”をめてかかって貰い度いと思うや切なるものがある。

(東京)

「当面は、私たちのできる節約」

シェラウドのひび割れに端を発した東京電力の原子炉停止による電力不足問題——この原稿が印刷発行される頃には、首都圏の大停電が本当に起きたのか、回避されたかが判明しているだろう。

電力消費量は年々増え続ける、しかも電力の備蓄はできない。私達はいま、このことを改めて目の前につきつけられている。

原子力発電をやめ、その分太陽光や風力発電で補えばよいと言う人もいる。しかし、発電規模において比較にならないことは全員知っているはずだ。

火力発電は大きな戦力になるであろうが、CO₂その他の大気汚染物質の排出が否定できない。

しかし、原子力発電にも使用済核燃料の処理という大きな壁がある。プルサーマル計画は足踏み状態にあり、「もんじゅ裁判」第二審では国が敗訴した。使用済核燃料は、現在発電所に保管されているが、いずれ限界がくる。

それではどうすればよいか。

電力の消費者である私達にできることは当面「エネルギーの節約」であろう。

社会全体の「エネルギーの節約」は、社会経済活動に負の影響を及ぼす。しかし、状況が改善されるまでは、しかたがないではないか。

そして、一刻も早く状況が改善されることを願うしかない。

(神戸)

「通じたか？コミュニケーション」

エネルギーといっても、私達が吸う空気のように、どこにでも、簡単にある—と思
いこんでいる。ボタン一つで電気がつく。あかあかと照らす部屋は当然のように思
いこんでいる。

節電にご協力を、クーラー温度を夏は下げすぎないようにとよびかけているが、
すでに電車やバスの冷たさはかなりのものである。

生活者も事業者もそれが当たり前になっている。

この節電は関東一円の話とそしらぬ顔の地方の人もある。

電力会社は去年の事故以来、各家庭に「おわびやら節電おねがい」に回っている。
もちろんテレビや新聞でもときどき、目にする。

あまり形式化している。おねがいに、地元家庭を何万軒まわったと知っているが、
どんな言葉で？ どんな態度か—マニュアル通りに間違いなく5分か10分ですませる
おわび—

通じたか、心の中から申し訳ないという点が相手にわかってもらっただろうか。

この点が疑問である。

人と対面して、やはり「電気の空気化」になってはムダである。

気の毒に、わさわざ来てくれた、この暑さのなか—と相手の心がおわびされる側
に伝わるコミュニケーションでなければ意味がない。やはり相手にみえるおわび側
でなければ無意味である。

(東京)

「人がもって欲しい使命感」

4月22日～23日の2日間、柏崎の刈羽原子力発電所の研修では、イラク戦争の関係で場内施設の見学が出来ず残念でした。しかし、サービスホールでの説明をうけ訓練センターを見学しました。ここでは発電所と同じ設備機器の前で緊急措置のボタンをつぎつぎに押し、実務さながらの訓練の様子を見学しました。過去、何ヶ所かの発電所見学に参加致しましたが、今までの見学で、感じられなかった一種の緊張感を感じました。

施設設備、そして問題となった箇所、そしてその仕組み等実にわかりやすく説明がなされ、より一層理解を深めることが出来ました。

万全な取組みがなされており、安全でしかもクリーンなエネルギー源であることもわかりました。

今回の見学で感じたことは利用する立場いわゆる消費者自身が自分の目で直接現場を見、耳で確かめた上でどんなものだと正しく理解することが大切なのだなあと思いました。

大勢の方々は見学や研修の機会も少なくマスコミ等の見出し程度の理解で判断し、おそろしいものと思っていることが多いのではないのでしょうか。

原子力発電所なるものについて、正しく理解することが大切で特に中学、高校、大学等の若い方々に、その必要性があるのではと思います。

しかし一方では現実の問題がおこってしまったのです。あれ程万全を期し、安全なエネルギー供給に努力しておられるのに、何故あのようなことがおこったのかお話しを伺いながら残念でなりませんでした。

すでにその要用については充分調整がなされ、対策を講じて、努力されていると思います。

発電業務にたづさわるのは、人です。

1人1人が、たえず危機感と強い使命感をもち、自覚とそれぞれの関係のある処との連携を充分にとって、事故防止に精進されること、その一言につきる様に思いました。

言葉がたりませんが先日の見学のお礼とさせていただきます。

御苦勞の程をお察し申し上げますとともに皆様方の御健勝、業務の益々の発展をお祈りします。

(宮 崎)



編集後記

日本全国の発電所を見学させていただきました。丁度、いまから、10年前に美浜ともんじゅを見学し、やはり「原子力の未来」は明るいと信じて、この会を続けています。

ことは、東京一円のエネルギー不足がとりざたされています。

今こそ、未来のために、若者も家庭人も、エネルギーこそ、本当に値うちのある生活の糧と考え、大切に守り、育てていきたいと思い、この10年前の写真のをのせることにしました。

各方面からのご指導、ご支援に深く感謝致します。

(編集責任 小藤博子)

Voice of E.&N.

(第13号) 15周年の会

平成15年7月10日

発行・編集人

代表世話人 小藤 博子

事務局

〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 1-8-18

電話 (03) 3300-8731

FAX (03) 3300-1252